

知事と区市町村長との意見交換会(小金井市)

令和2年10月7日(水)

14時50分～15時10分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からお願いいたします。

○**知事** 最近、オンライン会議が普通になってしまって、こうやって生で、リアルでというのが、このところこういう形になったということですが、でもわざわざ都庁までお越しいただいて恐縮でございます。

コロナの戦いということで、それぞれ現場を抱えて御苦労かと思えます。また、社会経済活動も進めていくということで、ウィズコロナの時代をどうやって生き抜くかという、非常に歴史的に見ても今タイミングが極めて重要な正念場かと思えます。

そういう中で新しい日常ということ、サステナブル・リカバリーを、今都政の構造改革を行っているところでございまして、それを梃子にして長期戦略を定めていこうということでございます。

今日は直接小金井市の現状、そしてまた課題、更には長期的な見通し、また御要望等を伺わせていただきたいと思います。限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

○**小金井市長** よろしく申し上げます。

○**行政部長** それでは西岡市長、よろしく申し上げます。

○**小金井市長** 改めまして、こんにちは。小金井市長の西岡真一郎でございます。本日、大変貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございます。また、二期目を迎えられる小池都政におきましても、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

早速でございますが、当市における取組や課題についてお伝えをさせていただきます。東京都の施策事業展開に繋げていただければと思います。

最初にウィズコロナ、アフターコロナを見据えた来年度予算や、長期戦略の策定等についてでございます。小金井市からは長期総合計画の策定及び来年度予算について、お話をさせていただきます。

まず冒頭、新型コロナウイルス感染症対策、また様々な支援策につきましては、東京都の皆様方から様々なご対応いただいております。誠に感謝申し上げます。ありがとうございます。

長期総合計画の策定と来年度予算編成に関してでございます。小金井市の長期総合計画につきましては、10年間の基本構想の下、5年ごとに基本計画を策定して、市政運営の指針としております。小金井市の最上位計画となります。

今年度は第四次計画の最終年度に当たり、令和3年4月からとなる次期第五次計画の策定を進めておりましたけれども、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえまして、

ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた計画にするため、策定期間を概ね半年間程度延期をいたしまして、再度検討しているところでございます。

今後の市政運営に当たりまして、新型コロナウイルスの影響をどう捉え、どのように住民福祉を考えるのか。今後検討を進めて参ります。

さて、来年度の予算に向けてでございますが、市の財政は極めて厳しい状況が続いております。新型コロナウイルス感染症の対策のため、東京都や国からの交付金を活用させていただいた上でも、市税収入の減、扶助費の増の他、老朽化が進む公共施設に掛かる経費の増等、非常に厳しい状況が長期的に続くと考えております。

行財政改革の推進により、持続可能な財政運営の確立に努めているところではございますけれども、依然として財政力に格差がある特別区との間では、様々な施策水準差が生じているのも現状です。

是非、東京都におかれましても厳しい状況であることは重々承知しておりますが、都内市町村、特に地方交付税の不交付団体である本市にとっては、非常に重要な財源補完制度であります。市町村総合交付金並びに区市町村振興基金の更なる増額、新庁舎建設にも活用できる等の条件の緩和、対象事業の拡大等、引き続き財政的な御支援の御検討を要望いたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、このままでは本市の重要な事業が停滞し、市民生活に多大な影響を及ぼしかねない、厳しい状況が見込まれております。

東京都の御支援に併せまして、国に対しましても、令和3年度も引き続き基礎自治体への特段の支援、協力をお願いしていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして新型コロナウイルス感染症拡大防止対策における都と区市町村との連携強化についてでございます。小金井市からは東京都の保健所との連携について申し上げさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、非常に重要な役割を担っていただいている保健所の職員の皆様に感謝を申し上げます。日夜御尽力いただきまして、本当にありがとうございます。また、体制を強化していただいていることに厚く御礼を申し上げます。この点につきまして、我々、市町村との連携について、お願いをいたします。

御存じのとおり、都内市町村では八王子市と町田市を除き、東京都の保健所が広域的に複数の自治体、区域を管轄しておりますが、長期に渡る新型コロナウイルス感染症対策におきましては、区部等の保健所設置自治体との情報の格差や体制の差が、住民に対する迅速な対策の違いに繋がる部分が大いと感じています。

小金井市を管轄している東京都の多摩府中保健所は、管轄自治体が6市、その人口は約105万人となっております。都内でも大きな規模の圏域となっている所でございます。

情報格差につきましては、先日9月8日から感染者情報につきまして療養状況、年代、男女別、接触歴を市の判断により公表可能としていただきました。ありがとうございます。

町別、感染経路の具体について情報提供をいただけると、市のコロナ対策が的を射たものかどうか、より説明責任を果たしていけると考えております。

一方、現在の多摩地域の保健所の更なる体制強化や、多摩地域の市町村でも意見がまとまっている状況ではありませんが、保健所の支所の増設、新たな保健所の設置等、管轄範囲の在り方につきましては、今後市町村の意見も是非聞いていただいたうえで、検証していただくことを要望いたします。

続きまして区市町村における地域の課題といたしまして、小金井市からは保育所等への補助の拡充や、新型コロナウイルス感染症対策への支援等について、申し上げさせていただきます。現在、小金井市が最も力を入れている取組の一つである、子育て支援に係る施策でございます。

子育ての多様化が進み、共働き家庭等の増加に加えまして、幼児教育、保育の無償化により、保育需要が掘り起こされ、また小金井市では人口増加が継続している状況でもあり、入園希望者が更に増加することも見込まれます。

現在、小金井市の人口なんですけれども、令和2年度の東京都の統計調査では、小金井市の人口の増加率が月毎で、6月から公表されているのですが、毎月多摩地域で1位となっております、都内全体でも上位となっているところでございます。

保育定員への確保は継続して進めておりますが、それと併せ、保育士の処遇改善、保護者の負担軽減を一層進める必要があります。待機児解消を進めるためにも、保育士の処遇改善、宿舍借り上げ、保護者への補助等の恒常的な負担軽減に要する経費や、保育の量の拡充、質の向上、両面に繋がる財政的支援を一層充実していただきたいと考えております。

総じて市の歳出における扶助費は年々増加傾向にあります。本市では児童福祉費が5年前と比べて約1.5倍となっております。ちなみに平成27年、児童福祉費の決算は約75億4,000万円。今年度令和2年度の予算は約114億1,000万円となっております。継続した補助を行うため、市町村の負担が過重にならないよう、東京都の様々な補助制度を、単年度ではなく継続して実施いただくことを要望いたします。

例えば保育所等賃借料補助事業、保育従事職員宿舍借り上げ支援事業、認可外保育施設利用支援事業等であります。具体的に何点か、最後にお伝えさせていただきます。

0歳児から2歳児までの保育単価が、認証保育所は認可保育所の公定価格と比較して低くなっておりますが、入所児童数の増加を促すためにも見直しを御検討いただきたいと考えております。

その他、新型コロナウイルス感染症対策に日々気を配りながら運営している子育て支援施設に対しての新型コロナウイルス感染症対策に掛かる財政的な御支援を御検討いただきたいと思います。

また、緊急事態宣言下において、都内自治体によって登園自粛、休園等の対応が異なる事態があったことから、感染予防の観点からも新たな基準や考え方、指針等を策定変更する場合においては、積極的な情報提供を御検討いただきたいと思います。

私からは以上でございます。是非都内自治体間でのサービスの格差を解消していただきますように、また財政的な支援を御検討いただきますよう、お願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 ありがとうございます。それでは知事からお願いいたします。

○知事 まず私の方から保健所の件で、またコロナ関連の情報の共有の関係であります。

多摩地域にある都の保健所は二次保健医療圏におきまして、広域的で専門的で技術的な拠点として、健康危機管理そして市町村の支援を行っているのは言うまでもございません。地域の感染症対策の重要な役割ということでございます。

一方で、おっしゃいましたように104万人から105万人が対象で、非常にまたその日によって非常に負荷が掛かるということで、保健所の方の体制を強化すべく、都としても都の直轄でもございますし、いろいろと民間委託等も含めて、トレーサー班を設けるとか、そういったような形で工夫もしておるところです。

それから市町村から御要望を受けまして、プライバシーに配慮をしながら地域の感染状況の把握であるとか、感染の拡大防止に必要な情報を整理して、週報でお届けして参ったところでありましてけれども、これを更に密にしまして回数を増やす、そして来週月曜日からは平日、毎日都の情報をお届けする形に整えているところなんです。

それから様々連携を取らせていただきながら、最も効率的で確実な方法を、またコロナもなかなか長期戦になっておりますので、最も市民にとっても安心な方法をこれからも重ねていきたいと考えています。

それから待機児童対策でありますけれども、待機児童対策というか、保育施設の関連です。確かに人口が12万人、毎年1,000人単位で増えておられるということです。また、最近コロナでどういうふうな方向になるのかというのは注視しなければなりません、その中で待機児童対策も進めておられるということです。

その中で待機児童対策を更に進めるという意味で、ちなみに東京都で見ますと、都内の待機児童者数が2,000人台まで減りまして、30年振りのお話になります。これもそれぞれ連携して進めていった結果かと思いますが、独自のキャリアパスの導入に取り組む事業者への補助、それから保育に従事される職員等の宿舍の借り上げ事業等、経費の補助等が有効に機能してきたのではないかと思います。

今後も引き続き、保育サービスの拡充に取り組む市区町村を支援していきたいというふうに考えておりますので、更に取り組むこと、よろしくお願いいたします。

○副知事 それでは私の方からお答えをさせていただきたいと思っております。まず財政問題でございますけれども、コロナ禍のこの半年、都では総額100億円の特別交付金の交付や、市町村総合交付金の6月概算交付額の引き上げ等、市町村の財政支援に取り組んできたところでございます。

しかし、お話のように、インフラの老朽化に伴う更新費や修繕費の増加等、元々の財政課題に加えまして、今後市税の大幅減少等が予想されるということで、市町村の財政事情というのは、大変今後厳しいものがあるということが予想されるという、お話のとおりか

と思います。

都といたしましては、今後も市の財政状況等を踏まえつつ、市町村総合交付金や振興基金等活用いたしまして、適切な支援に努めて参りたいと考えております。

また、国に対しても、全ての自治体に対して確実、十分な規模の財政支援を継続するように要望しているところでございますが、こういった活動も引き続きに継続、強化して参りたいというように考えております。

それから保育所や幼稚園、学童クラブ等の運営におきます、コロナ感染症対策でございますけれども、人的、物的に新たな負担が生じるのはそのとおりのと思いますので、都といたしましても適切な支援を検討して参りたいと思っております。

また、情報提供ということでございますけど、コロナ対策の様々な施策というのは、都民に一番身近なお立場にある市町村の役割は大変重要かと思っております。都といたしましても、適切な情報提供に引き続き努めて参りたいと思っております。

ただ、非常に状況がこの半年、刻々と変化するというのもございまして、短い期間で施策の立案、決定や実施、またその変更ということもやらなければいけないという、そういう事情もございまして、できる限りの確かな情報提供に努めて参りたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

○行政部長 それでは今の発言を受けて、市長いかがでしょうか。

○小金井市長 御回答いただきまして、ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症対策、これもまさに市民の皆様方の命と健康を守るという東京都と同様に自治体の使命をしっかりと果たさなければいけないというようにやっております。

東京都ともしっかりと連携を取りまして、市民の皆様方の命と健康を守るように、引き続き努力をして参りたいと思っております。

また、市民生活や事業所等、地域経済を守るという取組も、私たちにとりましては大きな使命だと思っておりますので、是非引き続き連携して取り組ませていただきたいと思っております。

知事からは様々な御回答いただき、ありがとうございました。保健所の皆様方との連携は本当に重要だと思っております。今回のこの感染症対策は長期化も懸念されますし、今後また新たなパンデミックの発生も念頭に置かなければいけないところ、課題もあるかと思っておりますが、保健所の在り方につきまして、是非検証を進めていただきたいし、我々自治体の声も是非聞いていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

また、東京都の子育て支援につきましては、知事就任以来、かなり力を入れて、これまでにない発想で自治体への支援策を構築していただきました。私としては市長就任以来、東京都、また知事が取り組んでいただいた様々な子育て支援策は積極的に活用するという姿勢を貫いて参りましたので、これからも努力して参りますが、その継続をお願いしたいと思っております。

また、副知事からも様々な御回答をいただきました。ありがとうございました。財政支援、よろしく申し上げます。特に東京都の自治体でございまして、我々はやはりここは

国の決断、国の対応というのが非常に重要だというように考えておりました、全国市長会からも国への要望を行います、東京都からも国に対しまして是非基礎的自治体への強力な支援をお願いしていただきたいと思っております。

数回にわたって知事とのこういった意見交換会に望ませていただいております。本当に貴重な機会を作っていただいて、本当に心から感謝申し上げたいと思っております。

これまで要望させていただいた内容、庁舎建設、また都市計画道路、第四次優先整備路線に選定されている二つの路線に対して、私も市長として様々な意見や思いを伝えさせていただきました。

どうぞ引き続き御対応いただきますように、併せてよろしくお願いたします。ありがとうございます。私からは以上です。

○行政部長 どうもありがとうございます。それでは最後に知事からお願いいたします。

○知事 今日は西岡市長から現場の声、そして実情を直接に伺い、大変有意義な意見交換できたかと思っております。御意見、そして御要望を踏まえまして、未来の東京を切り拓く羅針盤となります、長期戦略の策定、そして来年度の予算編成、こちらに当たりましての施策、事業の検討に取り組んで参ります。

これからもコロナに加えて、今度はインフルエンザと言われております。危機管理をしっかり対応していかなければなりませんし、情報の共有を更に進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。御苦労様です。

○行政部長 それでは以上で意見交換を終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。